

DPA (DWIDP) JICA 便り

防災対策アドバイザー (Disaster Prevention Advisor) 水資源省治水砂防局 (DWIDP)

No. 2 / 2006 . 10 . 31

ネパールの10月は、ダサイン祝日(今年は9月29日~10月7日)と、ティハール祝日(同じく10月21日~25日)が続きます。この間、人々は故郷に帰り家族みんなと楽しい時間を過ごし、また収穫を祝います。外国人にとっては、使用人を休ませ、商店・食堂等が閉まるので非常に暮らしぶらく感じる時期でもあります。これらの祝日が終わると本格的な乾期に入りカトマンズ盆地内からもヒマラヤの山々を目にする機会が増えます。

9月20日から10月20日までの1ヶ月間の災害発生状況としては、9月下旬に水に起因する災害により死者・行方不明者6人、全壊家屋43戸以上、浸水350戸以上、避難200家族と報道されています。

国内情勢については、政府とマオイストの和平交渉がダサインとティハールの間の期間に断続的に何度か開催されましたが、合意を得るには至らず、ティハール後に継続して行うこととなりました。カトマンズ盆地内では比較的平穏な状況に思われますが、商工会議所(FNCCI)がマオ派の強制寄付等に反対し全国規模での店舗の閉鎖等の宣言を行い、政府に圧力をかけるなどの事案が発生しています。なお10月下旬までの停戦については、さらに3ヶ月間延長されることになりました。

今後とも安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動をしていきたいと思えます。



DWIDP 屋上からみたヒマラヤの山々
(Mt.Dorje Lakpa 方面 10月30日)



買い物客らで賑やかなティハール前日の街
(手前のオレンジ色の花輪はプジャ(お祈り)に使用する。カトマンズ アサンチョーク)

バルク地区マナモハン公園の開所式が行われました



記念品(盾)を受け取る武士専門家

10月14日(土)、パタン市内バルク地区バグマティ川沿いにある、マナモハン(Manamohan)公園の開所式が行われました。元首相の故マナモハン アディカリ(Mr.Manamohan Adhikari)氏がその設立に尽力され、公園には氏の名前が冠されています。当地区はDMSF フォローアップ災害復旧のモ

デルサイトとして、中川前専門家の指導のもと水制工を施工した箇所です。このため DMSP フォローアップとして開所式に招待され記念品をいただきました。式典当日は、故マナモハン氏が所属していたネパール統一共産党党首のマダブ クマール ネパール書記長はじめ、ネパール会議派 (NC) 等他政党からの招待者、日本の平岡大使の代理として吉野書記官、そしてマテマ元駐日大使も出席されていました。

ネパールではゴミは河川や道路に放置されることが多いですが、みんなが力を出し合えばこの公園のようなきれいな場所が出来るというスピーチもありました。

公園には、その開所にあたって協力した方々を示す銘板が設置しており、その銘板には DMSP フォローアップの両専門家の名前も刻まれており、大変恐縮している次第です。



故マナモハン氏の胸像と銘板(右下)

主な出来事・トピック

地質学会と DPNet 主催の「Disaster Risk Reduction begins at School」が開催されました

10月18日(水) ネパール地質学会と DPNet の主催で「Disaster Risk Reduction begins



ダハチヨーク地区の先生による発表(右)

at School」と題するセミナーがネパール赤十字セミナーホール(カトマンズ)で開催されました。ネパール地質学会会長である DWIDP のトラダール(Dr.Ramesh Man Tuladhar) 課長は、本セミナーの運営・発表と大忙しでした。

学校における防災教育の重要性はネパールにおいても認識されており、本セミナーでは各種団体等の学校における実施事例が紹介され、さらに現場で実際に教えている先生方からの発表もありました。DMSP プロジェクトで実施していたダハチヨーク地

区の事例についてはトラダール氏が紹介するとともに、当地区の Indra Joyti Primary School の先生による発表も行われました。

本セミナーには内務省はじめ防災に関する機関の関係者が多く集まり、情報交換には絶好の場となりました。

道路局派遣専門家の鹿野島氏が帰国されました

2003年10月から3年間、道路計画・維持管理アドバイザーとして公共事業計画省道路局にて活躍された鹿野島秀行専門家が任期を終了し16日に帰国されました。主要幹線道路の土砂災害対策について道路局と治水砂防局が協力して実施する体制とするなど、大変お世話になりました。帰国後の所属は国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター地震防災研究室になります。国情の非常に厳しいなかでの3年間の活動、本当にご苦労様でした。



空港にて

防災対策アドバイザー活動

科学技術省水文気象局気象予報部門を訪問しました

10月26日(木)に、科学技術省水文気象局の気象予報部門を訪問し、副局長であるビ



ヴァイデェ氏(右)に説明を受ける

ジャヤ クマール ヴァイデェ (Mr.Bijaya Kumar Vaidya) 氏からお話を聞くことが出来ました。水文気象局は官庁街であるシンハダルパールにあります。気象予報部門はトリブバン国際空港に隣接しており、ネパール国内における15箇所の主要な観測サイトのひとつとして敷地内において気象観測を実施しています。ヴァイデェ氏からは日常の業務としての気象観測、その伝達手法、気象予報の流れなどのお話を聞くことが出来ました。予報にあたってはネパール国内だけ

のデータでは十分ではないため、基本的なデータはインドに送り、インドにおいて周辺国の情報をまとめ、それをフィードバックしてもらっているとのこと。また豪雨等による災害発生時には内務省に一日一回連絡している等、防災情報発信機関としての役割についても、お話を聞くことが出来ました。

千客万来

10月12日に、DPTC プロジェクト初代河川担当専門家の井上隆司氏が DWIDP に来所されました。井上氏はネパールの子供たちの教育を支援する里親活動を行う NGO 組織の理事をされており、今回のネパール訪問はネパールの子供たちの家庭の状況を日本の里親に伝えるためとのことです。2004年11月以来、2年ぶりの訪ネとのこと、DWIDPの当時を知るスタッフと親交を温められました。特にバッタライ局長は当時、DPTC 情報課の課長として井上氏と一緒に仕事をされたとのこと。この他、井上氏から極西部のマハカリ川の対策を開始した際の当時の状況など、興味深いお話を伺うことができました。



バッタライ局長と歓談する井上氏

編集後記

10月のネパールは雨期から乾期への季節の変わり目、そしてダサインとティハールの祝日で、ネパールの人たちはお祭り疲れ、外国人はカトマンズ脱出(国内外旅行)疲れと身体の調子を崩しやすい月です。筆者もなかなか抜けないカゼの症状に10月のネパールを感じています。

編集責任者：武士俊也

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：dmspfu@wlink.com.np